

令和2年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の  
点検及び評価報告書

令和3年12月  
能登町教育委員会



# 目次

## I 点検評価の基本的考え

1 趣旨	2
2 点検評価の対象	2
3 点検評価の方法	4

## II 点検評価の結果

### 1 成果と課題、今後の方向性

#### 基本方針1 まちの未来を担う人材を育てる学校教育の推進

目標1-1 学力向上	5
目標1-2 豊かな心身の育成	8
目標1-3 特別支援教育の推進	12
目標1-4 家庭や地域との連携	14
目標1-5 教育環境の整備	18
目標1-6 指導体制の充実	22
目標1-7 保護者負担の軽減	24

#### 基本方針2 学ぶことに興味を抱ける生涯学習活動の推進

目標2-1 生涯学習活動の展開	26
目標2-2 生涯学習施設の整備と活用	29
目標2-3 青少年健全育成の体制づくり	32

#### 基本方針3 郷土への愛着を醸成する地域文化・文化遺産の振興と継承

目標3-1 文化振興事業の推進	35
目標3-2 文化財の保護と活用	38
目標3-3 歴史・文化を活かした交流人口の拡大	42

#### 基本方針4 健康で豊かな人間性を育てるスポーツ・レクリエーションの充実

目標4-1 生涯スポーツの推進	43
目標4-2 スポーツ施設の整備と積極的活用	46

#### 基本方針5 国際社会に対応できる人材育成と国際交流の推進

目標5-1 国際的視野を持つ人材の育成	48
目標5-2 外国語助手の招致と活用の拡充	49

### 2 評価の結果と理由

(1) 評価の結果一覧	50
(2) 評価の理由	51

## III 参考資料

1 教育委員会の活動状況	55
2 教育費決算額	59

## 1 趣旨

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき「第2期 能登町教育振興基本計画」(令和元年度策定)の進捗状況を点検、評価し、指標などの達成状況をまとめたものである。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検・評価の対象

「第2期 能登町教育振興基本計画」は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3に規定する「大綱」として位置づけられており、5つの基本方針の下に設定されている17の目標を点検・評価の対象とした。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(大綱の策定等)

第一条の三 地方公共団体の長は、教育基本法第十七条第一項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱(以下単に「大綱」という。)を定めるものとする。

2 地方公共団体の長は、大綱を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、次条第一項の総合教育会議において協議するものとする。

3 地方公共団体の長は、大綱を定め、又はこれを変更したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

4 第一項の規定は、地方公共団体の長に対し、第二十一条に規定する事務を管理し、又は執行する権限を与えるものと解釈してはならない。

## 【第2期 能登町教育振興基本計画(抄)】

能登町の教育の基本的な考え方

### 1 基本理念

「能登」の地と人に学び 未来を拓く たくましい力をはぐくみ 一歩前へ進む人づくり

本町のまちづくりの基本姿勢は「人をつなぎ、地域をつなぎ、未来へつなぐまちづくり」を基本目標に、これまでに進めてきた施策を未来につなぎ「未来の能登町を担う人づくり」を進めています。本町の教育においては「人づくり」を重要なものとし、本計画においてもめざす人間像、教育基本方針を定めています。

### 2 めざす人間像

- (1) 確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人間
- (2) 責任とモラルを重んじ、人を思いやる心豊かな人間
- (3) 健康や体力の増進に積極的に取り組む、活力ある人間
- (4) ふるさとに誇りを持ち、広い視野にたって社会に貢献する人間

### 3 能登町の教育基本方針と目標

基本方針1 まちの未来を担う人材を育てる学校教育の推進

- 目標1-1 学力向上
- 目標1-2 豊かな心身の育成
- 目標1-3 特別支援教育の推進
- 目標1-4 家庭や地域との連携
- 目標1-5 教育環境の整備
- 目標1-6 指導体制の充実
- 目標1-7 保護者負担の軽減

基本方針2 学ぶことに興味を抱ける生涯学習活動の推進

- 目標2-1 生涯学習活動の展開
- 目標2-2 生涯学習施設の整備と活用
- 目標2-3 青少年健全育成の体制づくり

基本方針3 郷土への愛着を醸成する地域文化・文化遺産の振興と継承

- 目標3-1 文化振興事業の推進
- 目標3-2 文化財の保護と活用
- 目標3-3 歴史・文化を活かした交流人口の拡大

基本方針4 健康で豊かな人間性を育てるスポーツ・レクリエーションの充実

- 目標4-1 生涯スポーツの推進
- 目標4-2 スポーツ施設の整備と積極的活用

基本方針5 国際社会に対応できる人材育成と国際交流の推進

- 目標5-1 国際的視野を持つ人材の育成
- 目標5-2 外国語助手の招致と活用の拡充

### 3 点検・評価の方法

評価の方法は自己評価と外部評価である。自己評価は、教育委員会において事業の実績、成果に基づいて行い、今後の方向性についてまとめた。外部評価は、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、能登町教育委員会外部評価委員会を設置して行った。外部評価委員は、以下の方々である。

#### 【能登町教育委員会外部評価委員会】

職	氏名	役職等
会長	平田 文博(ひらたふみひろ)	能登町文化財保護審議会 会長
委員	池岸 雅弘(いけぎしまさひろ)	能登町社会教育委員 議長
委員	前田 稔子(まえだとしこ)	能登町校長会 代表(町立学校 校長)
委員	浅見 敏夫(あさみとしお)	能登町スポーツ推進委員会委員長

自己評価及び外部評価の基準は、次のとおりである。

- A 優れた取り組みで十分な成果があり、計画どおりの事業推進が適当
- B 良い取り組みで成果が上がっているが、事業の進め方に改善が必要
- C 十分な成果が上がってなく、事業規模・内容の見直しが必要

## Ⅱ 点検・評価の結果

### 1 成果または課題及び今後の方向性

#### 基本方針1 まちの未来を担う人材を育てる学校教育の推進

#### 目標1-1 学力向上

#### 施策1 学力向上対策

事業	成果または課題
<p><b>●学力調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力調査(小6国算・中3国数)</li> <li>・県学力調査 (小4国算・小6社理・中3英社理)</li> <li>・町学力調査 (小3国算・小5国算理・中1国数社理・中2国数社理英)</li> </ul>	<p>町の学力調査では、中学1年生は全国平均を上回り、その他は全国平均と同程度であった。</p> <p>今後、調査結果を活用し、授業改善や個別指導の充実を図る。</p> <p>(新型コロナウイルス感染症予防対策のため、町の基礎学力調査以外は未実施)</p>
<p><b>●英語力向上対策事業</b></p>	<p>小学3年生～中学3年生までの各発達段階に応じて外国語に慣れ親しむ授業づくりを実施した。体験的に異文化を理解することを通して外国語教育を一層充実することができた。</p>

#### ◎達成目標

全国学力・学習状況調査	実績(H30)	実績(R1)	実績(R2)	目標値(R5)
小6算数平均正答率	県平均+5.5	県平均+8.0	実施なし	県平均+5
中3数学平均正答率	県平均+4.3	県平均+6.0	実施なし	県平均+5

※令和2年度は実施なし

英検3級以上取得率	実績(H30)	実績(R1)	実績(R2)	目標値(R5)
中3卒業時	51.4%	54.3%	49.5%	60%

## 施策2 組織的・計画的な授業の改善

事業	成果または課題
<p>●計画訪問、要請訪問等</p>	<p>教師の授業力向上について、奥能登教育事務所と連携し、各校2回の計画訪問、及び要請訪問を行った。教師の授業改善の意識を高めることができた。</p>

## 施策3 推進校及び指定校による先進的研究

事業	成果または課題
<p>●学力向上対策事業</p>	<p>各校を対象に、独自の学校研究を行い児童生徒の実態に応じた学校研究を推進し、児童生徒の学力向上ができた。</p>
<p>●学力向上実践研究推進事業</p>	<p>小学校及び中学校それぞれ1校ずつを指定校とし、研究推進した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研究発表会は開催しなかった。</p> <p>宇出津小学校 令和3年3月1日 能都中学校 令和3年3月16日</p> <p>小学校と中学校において、指導法の工夫改善や校内研究を行い、自校の成果等を能登町の学校に広めることができた。</p>
<p>●海洋教育</p> <p>・小木小学校では、教育課程の特例を受け平成27年度より「里海科」を開設し、海洋教育の在り方を研究する拠点校として取組を実施</p> <p>・小木中学校では小学校で学んだ海洋教育をより深めた取組を実施</p>	<p>海洋教育拠点校推進事業(小木小学校)「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4分野において授業・取組を行った。児童の授業アンケートでは「海が好きになった」「取組がためになった」と答えた者の割合が9割であった。</p> <p>海洋教育活動活性化事業(小木中学校)</p>



<p>・財団法人中谷医工の助成金を活用し、各校の体験活動費や東京大学の海洋アライアンスの出前授業費として活用</p>	<p>「海の職業」「海の怖さ」を学びながら、キャリア教育と防災教育の両面で海の知識を深めた。</p> <p>各校においては、中谷医工の助成金を活用し、海洋教育を計画的に進め、児童生徒にとって有意義な教育活動を行った。</p>
<p>●環境教育 ISO</p> <p>「いしかわ学校版環境ISO」の認定を受け、学校ごとの環境行動計画に基づき、二酸化炭素や廃棄物の削減、資源の有効利用、省エネなどの環境保全活動</p>	<p>認定校:9校(全校)</p> <p>エコギフト受賞校 R2 金賞:宇出津小</p> <p>R1 銅賞:宇出津小</p> <p>H30 大賞:小木小</p>

#### 施策4 読書活動の推進

事業	成果または課題
<p>●学校図書館指導員配置事業</p>	<p>指導員を小学校全体で1名、中学校全体で1名を配置し、週に1回(1日)巡回した。</p> <p>図書の貸出しや修理、新刊の登録などの業務を行い、教員の学校図書館業務の負担を軽減できた。</p> <p>学校図書館を活用しやすい環境づくりを行うことで、1人平均貸出冊数は小学校46.2冊(目標29冊)、中学校14.5冊(目標9冊)であった。</p>

#### 評価の結果 目標1-1 学力向上

教師の授業力向上の意識の高まりと各種取組によって、児童生徒の学力向上を目指した。

#### 今後の方向性

児童生徒には、さらに知・徳・体のバランスの取れた教育活動の工夫により、学力を身に付けることができるよう取り組みを図る。

能登町の児童生徒の学力向上にむけて、今後も様々な取組を継続する。能登町独自の海洋教育の取組や学力テストの結果等、特徴ある教育の成果については、町民にさらに広める。

## 目標1-2 豊かな心身の育成

### 施策1 学校保健、学校安全、学校給食、食育の充実

事業	成果または課題
●食育推進事業	<p>異物混入マニュアル作成や食物アレルギー対応フロチャートの作成などを通じ、安心安全な学校給食の提供や事故時の対応等について、改めて職員間で共有し学校内の連携体制の見直しを図った。</p> <p>中学1年生を対象にお魚調理実習で、イカを裁く調理体験を実施し、小木船凍イカへの理解を深めた。</p>
●おさかな給食の実施	<p>石川県漁協小木支所から、提供を受けた船凍イカを給食のメニューに取り入れ、児童生徒に向けて、船凍イカへの理解や興味を深め、地場産食材への関心を高めた。</p> <p>漁協と連携したお魚給食の実施 (各校2回提供)</p> <p>能登町または県産の魚を食材とした給食の実施 (6～翌年3月全校で実施)</p>
●学校保健・安全計画の作成	<p>各学校で学校保健・安全計画を策定、実施。(児童生徒及び教職員の健康診断、感染症流行時の健康情報把握など)</p> <p>学校医・学校薬剤師等との連携を推進し、環境衛生の維持に努め、必要に応じて改善を図った。</p>

◎達成目標

全国体力・運動能力調査の体力合計点	実績(H30)	実績(R1)	実績(R2)	目標値(R5)
対象学年 小学5年	男 57点 女 58点	男 56点 女 58点	未実施	男 60点 女 60点
対象学年 中学2年	男 44点 女 49点	男 42点 女 49点	未実施	男 50点 女 50点

施策2 道徳教育的な態度の育成に向けた指導

事業	成果または課題
●道徳教育推進事業(県委託事業)	<p>中止 (新型コロナウイルス感染症拡大による)</p> <p>生命を尊重する心、他人を思いやる心、倫理観、正義感等、人としてのあり方や生き方を学び、コミュニケーション能力溢れる人間性豊かな子どもを育成する道徳授業の充実を図る事業。</p>

施策3 子どもの権利の理解に向けた指導

事業	成果または課題
●人権教育推進事業	<p>各学校の教育活動全体を通じ、人権教育の推進を目指し、管理運営計画に位置付け実施した。</p> <p>生徒は人権作文を書く活動等を通し、人権意識を高めることができた。</p>

#### 施策4 体験活動の充実

事業	成果または課題
●姉妹都市交流事業	中止 (東京オリンピック開催を見据えた)
●伝統文化に触れる体験	中学卒業証書の制作のため地域と連携した取り組みを通し、文化、地域資源の継承の貴重な役割を果たすことができた。

#### 施策5 社会的、職業的自立に向けた必要な能力の育成

事業	成果または課題
●キャリア教育 中学生の職場体験	中止 (新型コロナウイルス感染症拡大による)

#### 施策6 生徒指導・教育相談体制の充実

事業	成果または課題
●QU アンケートの実施	町内全校児童生徒を対象に、6月と10月に2回実施した。アンケート結果を活かし、全校生徒を対象に、生徒指導、教育相談体制の充実を図った。 不登校の未然防止やいじめの早期発見に取り組むことができた。

## 施策7 いじめ・不登校への取り組みの充実

事業	成果または課題
●学校ハートフル相談員の配置	全中学校で実施し、悩み等を気軽に話す環境を整え、生徒の心の問題に対応できた。(各中学校1名の配置)
●ハートフルフレンド相談員の派遣	相談員派遣は2校3ケースに実施した。 本人またその保護者、教員に対しカウンセリング等を行い、不登校の防止に向けた支援を行った。 (全校対象 専門相談員に事業委託)

### ◎達成目標

項目	実績(H30)	実績(R1)	実績(R2)	目標値(R5)
いじめの認知件数	11	5	11	—
いじめの重大事態件数	0	0	0	0

## 評価の結果 目標1-2 豊かな心身の育成

各学校においては、学校保健計画や食育推進計画、いじめ防止基本方針等を踏まえ、子どもの豊かな心身の育成に向け、地域や家庭等と連携して積極的に取り組んだ。

### 今後の方向性

学校保健・学校給食、食育の充実及び学校や地域における子どものスポーツの機会の充実を図り、健やかな体を育む。また、道徳教育を推進する等で、自己肯定感や自己有用感を高めるための取組みを推進し、豊かな心を育む。キャリア教育を推進し、進路や将来の仕事に関することを意識する児童生徒を育成する。

学校や家庭・地域・関係機関が一体となって、子どもたちにいじめを許さない意識を醸成する。また、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組む。

## 目標1-3 特別支援教育の推進

### 施策1 特別支援教育の充実

事業	成果または課題
●教育支援委員会の設置、運営	<p>一人一人の教育的ニーズに応じた適切な就学に向け、委員会を設置(年1回)した。</p> <p>教育・医療・福祉などの関係機関と連携し、教育支援委員会を開催し、就学調整を行った。</p>

### 施策2 障がいのある子どもの望ましい就学の実現

事業	成果または課題
●特別支援教育支援員配置事業	<p>各学校に、特別支援教育支援員を配置した。</p> <p>小学校 11人(44人) 中学校 3人(9人)</p> <p>特別支援教育コーディネーターを中心に各学校で情報共有を図り、支援員の配置や通級指導教室を開設し、特別な支援を必要とする児童生徒の安定的な学校生活の支援を推進した。</p>

項目	学校種別	実績(R1)	実績(R2)
特別支援学級設置状況 学級数( )は人数	小学校	8(11)	5(6)
	中学校	2(3)	4(6)
特別支援教育支援員配置数 配置数( )要支援児童生徒数	小学校	11(43)	11(44)
	中学校	3(8)	3(9)
通級指導教室開設状況 開設校( )は人数	小学校	柳田(6)小木(3)	柳田(6)小木(3)
	中学校	柳田(3)小木(3)	柳田(5)小木(2)

---

### 評価の結果 目標1-3 特別支援教育の推進

各学校において、支援を要する子どもの数は一定の割合で推移しており、適切な配慮が必要な児童生徒のための特別支援学級や通級指導教室の設置をした。また、保育所や学校巡回観察、教育相談等により、一人一人の教育的ニーズに応じた就学に向けて適切な対応を行った。

---

### 今後の方向性

個に応じた適切な支援や合理的配慮に基づいた環境整備、校内支援体制を充実する。また、教職員や保護者等に対する研修及び講演会を通し、特別支援教育への理解を深める。

## 目標1-4 家庭や地域との連携

### 施策1 地域への学校開放の実施

事業	成果または課題
●学校施設開放	<p>スポーツ少年団を中心に、体育館、グラウンドの活用があり、施設の利用、地域交流の促進を図った。地域の活性化に主体的に寄与する人材の育成を図った。</p> <p>利用許可申請と利用実績に基づく学校名 (1)柳田小学校 (2)宇出津小学校 (3)鶯川小学校 (4)小木小学校 (5)松波小学校 (6)柳田中学校 利用許可申請なし (7)能都中学校 (8)小木中学校 (9)松波中学校 利用許可申請なし (10)旧鶯川小学校 (11)旧瑞穂小中学校</p> <p>(中学校は部活動があり開放は限定的)</p>

### 施策2 学校評議員の参画による開かれた学校運営

事業	成果または課題
●学校評議員の配置	<p>各校で3～5名の学校評議員を配置した。校長の推薦により、全体で31名の学校評議員を委嘱し、学校運営について意見を求め、開かれた学校づくりを進めることができた。</p>



### 施策3 学校の教育活動の発信

事業	成果または課題
●能登町 PTA 連合会研究大会	未実施 (新型コロナウイルス感染症拡大による)

### 施策4 授業参観・学校行事への参加

事業	成果または課題
●学校一般公開	各学校において、教育ウィークを中心に学校の活動を家庭や地域に公開した。 学校運営について、意見や評価を反映しながら信頼され魅力ある学校づくりの推進をするため学校関係者評価委員会等を行った。学校だよりや学校のホームページの内容を充実させ、発信することができた。

### 施策5 学校通学路の巡回指導等の支援活動体制

事業	成果または課題
●通学路合同点検(関係機関連携)	家庭、学校、地域の協力体制の下、通学路の交通安全の確保及び登下校時のパトロールを強化することができた。 合同点検 令和2年 8月17日(月) 実践委員会 令和2年11月16日(月) 8月の点検結果により、危険箇所への具体的な対策について、協議、検討、効果検証を行った。対策については対応時期を明確にし、町の通学路交通安全プログラム及び対策内容を町ホームページで公表した。 不審者に関する情報を迅速に共有し子どもの安全を確保することができた。

## 施策6 放課後のスポーツ・文化活動等への学びの提供

事業	成果または課題
●放課後子ども教室	<p>子どもたちが放課後を安全・安心に過ごす機会を提供し児童福祉担当課との連携を図った。子どもの健全育成において重要な役割を果たす場所となっている。</p> <p>柳田教養文化館 毎週 4～5 回 内容 工作、読み聞かせ、将棋、囲碁、自習見守り等</p>

### ◎参考指標

項 目	実績(R1)	実績(R2)
放課後子ども教室への1日平均参加人数	15 人	15 人
放課後子ども教室の年間開設日数	100 日	100 日

## 施策7 魅力ある学習機会の提供

事業	成果または課題
●教育支援ソフト(eライブラリ)の活用	<p>学校では児童生徒の自主的な学習に eライブラリを使った。</p> <p>児童生徒が家庭においても十分に学習ができるよう情報技術を適切かつ効果的に活用した。</p> <p>他に電子メールを保護者への連絡に活用した。</p>

---

## 評価の結果 目標1-4 家庭や地域との連携

家庭や地域社会に対して積極的に働きかけを行い、ボランティアや文化・スポーツ活動、また防災教育などの学校外活動を通じ、地域の一員としての自覚と誇りを持つような取組を実践した。家庭・PTAや地域との連携ができた。

---

## 今後の方向性

地域と家庭、学校が連携・協働を図り、家庭や地域における教育力の向上を推進し、学校が抱える社会的課題の解決を図っていく。学校評議員等からの意見を参考に、開かれた教育課程を意識した学校運営となるよう関係機関との連携をさらに推進する。

## 目標1-5 教育環境の整備

### 施策1 学校施設の維持管理

事業	成果または課題
<b>●学校施設毎の個別施設整備計画の策定</b>	<p>子どもたちの安全な学習環境を確保するため、将来の財政負担の縮減と老朽化による事故等の危険リスクを低減する計画的・効率的な施設整備目指し、令和2年度は、計画の素案を策定した。</p>
<b>●学校施設の改修</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・特別教室空調設備設置事業 鵜川小以外の全ての学校の理科室・図書室に空調機と、宇出津小ランチールームの空調機を設置した。</li><li>・宇出津小学校大規模改造 国補助金により四肢不自由児童の入学による、校内バリアフリー整備とエレベータを設置した。</li><li>・柳田中学校グラウンド改修 国補助金により、グラウンド全体の暗渠排水の更新と表土入れ替えを行った(令和3年繰越)。</li></ul>

## 施策2 学校防災対策の推進

事業	成果または課題
●防災教育の実施	各学校において、様々な災害から身を守り、安全に避難できるよう避難訓練を行った。全校でシェイクアウトに参加した。 また、ハザードマップを使い、危険個所の確認を行った。
●防災訓練の実施	校内での訓練は実施したが、新型コロナウイルス感染症予防対策により、町総合防災訓練には学校としては参加しなかった。

## 施策3 学校規模の適正化

事業	成果または課題
●学校規模の適正化に向けた検討委員会の設置	子どもたちの教育活動を中心に、地域の実情に合わせ、学校配置を行った。 (検討委員会未設置)

#### 施策4 ICT環境の充実

事業	成果または課題
●GIGA スクール構想の実施	<p>「能登町 GIGA スクール構想の実現に向けた計画書」を令和元年3月策定した。「学校における ICT 環境の整備方針」に基づき計画的な ICT 環境の整備を推進した。</p> <p>国補助金を受け、ネットワーク整備は 11 月に完了、センター集約方式とした。児童生徒用端末については、10 月までに全 791 台を配備し、11 月より本格運用を始めた。</p>
●ICT 支援員配置事業の充実	<p>ICT 支援員により、教員による ICT 機器を用いた授業や校務への活用が図られた。</p> <p>特に機器の故障や使い方が分からないなどのトラブルに対して、迅速に対応した。</p> <p>1 校につき、半日ずつ週 2 回配置 (6時間×9校×41週)</p>

#### ◎達成目標

項 目	実績 (H30)	実績 (R1)	実績 (R2)	目標値 (R5)
学校施設毎の個別施設整備計画	0 校	0 校	9 校(素案)	9 校
児童生徒1人1台パソコンの設置 1 台あたり	4.9 人	4.0 人	1 人	1 人
トイレの洋式化	53%	54%	56%	80%

---

## 評価の結果 目標1-5 教育環境の整備

施設の老朽による突発的な大規模修繕事業が発生するなど、優先順位は毎年変動しているが、児童生徒の安全・安心の確保と教育環境の向上に努め、学校施設整備目標を計画的に遂行した。

---

## 今後の方向性

教育施設の大半が築後40年を経過している。改築か建て替えの検討資料として学校個別施設整備計画を早期に策定し、財源調整の判断資料とし、町他事業との調整を図り整備を行う。空調設備設置事業としては、今後、音楽室の設置の促進を図り、教育環境の充実を図る。トイレの洋式化及び乾式化を促進し、学校衛生環境の向上を図る。

## 目標1-6 指導体制の充実

### 施策1 教職員の資質向上

事業	成果または課題
●教職員研修	教職員の育成指標に基づいた研修を行った。初任者研修、3年目教諭研修、6年目教諭研修、中堅教諭等資質向上研修、21年目教諭研修等を行った。
●若手教員早期育成プロジェクトの実施	若手職員を短い期間で育成し、プロ意識を持つよう現場での指導を充実した。 管理運営計画に、早期若手育成プログラムを位置づけた。各校において、年間計画に基づき、現場で指導を行った。

### 施策2 教職員の多忙化改善のための取組

事業	成果または課題
●長期休業中の学校閉庁日の設定	令和2年8月11日～8月14日 4日間実施した。
●部活動の方針策定と部活動指導員配置	適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を進め、教員の負担軽減を図ることができた。 H31年4月方針策定 能都中学校2名 松波中学校2名
●スクール・サポート・スタッフ配置事業	教育支援体制整備事業費補助金(補習等の指導員等派遣事業)を活用しスクール・サポート・スタッフを2人配置(能都中学校1人 宇出津小学校1人)した。



	<p>また、9月より新型コロナウイルス感染症対策による教職員の負担軽減を目的とし、追加7名を新たに配置(宇出津小、能都中を除く小中学校7校に各1人。国補助事業を活用)した。</p> <p>教職員の働き方改革として、児童生徒への指導に直接的に関わらない業務全般の補助を行い、教員の負担軽減を図ることができた。</p>
<p>●校務支援システムの導入</p>	<p>統合型支援システムの導入に向けた検討会に参加し、令和3年8月の共同調達が決定した。令和3年9月からの運用を目指す。</p>

---

## 評価の結果 目標1-6 指導体制の充実

教職員全体の資質・能力向上を図り確かな学力、豊かな心、健やかな体を持つ子どもを育むことができるよう、教職員の指導力向上や育成に関する研修を実施した。

県と連携し、教職員のキャリアに応じた研修を行うことができた。また、各校で、若手教員早期育成プログラムを作成し、校内研修を工夫した。

時間外勤務時間が80時間を超える教職員の数は減少した。

---

## 今後の方向性

県と連携した教職員のキャリアに応じた研修を通し、教職員の資質・能力を育む。各校で若手早期育成プログラムの内容を検討し、年間計画に基づき、校内で若手を育成する。また、ワーク・ライフバランスのある教職員の働き方改革を進める。教職員の業務の負担を軽減するため、校務支援システムの導入等に取り組む。

## 目標1-7 保護者負担の軽減

### 施策1 経済的・地理的条件に対する支援と保護者負担の軽減

事業	成果または課題
<p>●通学費補助事業</p>	<p>遠距離のため通学が困難な者に対し、バス運賃購入費を補助し、経済的負担の軽減を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒通学費(路線バス定期補助)</li> <li>柳田小学校 25人 小木小学校 6人</li> <li>柳田中学校 11人 能都中学校 51人</li> <li>松波中学校 11人</li> </ul>
<p>●就学援助事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要保護児童生徒 1人</li> <li>・準要保護児童生徒</li> <li>小学生 48人 中学生 24人</li> <li>援助費目 学用品費、学校給食費、修学旅行費、アルバム代</li> <li>新入学学用品費(入学前支給を実施)</li> <li>・特別支援教育就学奨励事業</li> <li>小学生 1人 中学生 4人</li> </ul>
<p>●育英資金事業</p>	<p>経済的条件が不利な生徒に対して、公平な教育・進学のための確保を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続貸付</li> <li>四大生(30千円)1人</li> <li>短大、専修、高専生(25千円)0人</li> <li>高校生(20千円)0人</li> <li>・新規貸付</li> <li>四大生(30千円)3人</li> <li>短大、専修、高専生(25千円)0人</li> <li>高校生(20千円)2人</li> </ul>

---

## 評価の結果 目標1-7 保護者負担の軽減

就学援助費を支給することで経済的負担を軽減し、教育環境の向上と義務教育の充実を図った。また、奨学資金の貸与により、進学を望む児童生徒が、公平に学ぶ機会を得ることができた。

---

## 今後の方向性

経済的な理由によって、就学が困難な児童生徒の保護者に対して就学援助を行うことにより、義務教育の円滑な実施に資する。奨学資金基金の活用により、継続して希望する者に貸与を行い制度の充実を図る。

## 基本方針2 学ぶことに興味を抱ける生涯学習活動の推進

### 目標2-1 生涯学習活動の展開

#### 施策1 生涯学習事業の推進

事業	成果または課題
●能登町まちづくり出前講座の実施	<p>生涯を通して知識と時代の変化に応じたスキルを獲得できるよう、「いつでも、どこでも、何度でも学べる環境」づくりに取り組んだ。町民の自己啓発や生活向上のため、生涯を通じて学べる機会を提供した。また地域を通じ共に学ぶことで、生涯学習によるまちづくりの推進に寄与できた。</p> <p>受講件数 87件 講座数 104講座 受講者数 1,304人</p>
●生涯学習推進大会の実施	<p>中止 (新型コロナウイルス感染症拡大による) 社会教育功労者表彰は実施した。 令和3年2月15日(月)</p> <p>・社会教育功労者表彰 個人5名</p> <p>大会中止の代替え措置として、社会教育委員、町公民館連合会と協力し、能登町生涯学習施設紹介パンフレット「まなびハッケン」を作成し、2月から町HP等で公開した。公民館、図書館、博物館施設等の事業を紹介し、町民へ生涯学習の情報を提供する媒体として、毎年更新予定。</p>
●社会教育活動団体への支援	<p>社会教育の振興を図るため、社会教育団体が行う活動に対する支援を行った。</p>

## 施策2 公民館活動の推進

事業	成果または課題
●特色ある活動事業	<p>地域の特色を活かした活動を展開する各公民館の主体性を持たせた事業の実施。事業を通じた地域の再発見や世代間・他分野・地域の交流が促進され、地域を活性化させることができた。</p> <p>地域性を考慮しつつ、15 公民館が積極的に取り組むことができるよう支援する。</p> <p>なお、2年度より、公民館複数館による連携事業の実施も推進しており、さらなる事業の幅の広がりを期待している。</p>
●公民館自主事業(教室、各種大会)の充実支援	<p>それぞれの地域特性に即した公民館の事業の充実を図るため、講師の紹介や事業の進め方についての助言。</p> <p>新しく教室などを設けた公民館もあり、今後も事業の充実に向けた支援を行う。</p> <p>また、公民館主催事業を参加者の手にゆだねて自立させる支援もおこない、公民館・地域の社会教育・生涯学習の幅が広がるよう取り組んでいる。</p>

---

### 施策3 各種団体との連携及び人材育成

事業	成果または課題
● 婦人団体協議会への活動支援	活動支援として補助金交付のほか、同団体協議会が主催するイベント・行事に協力した。今後の活動維持のために婦人会の会員数の減少傾向や会員の高齢化について、対策を検討する。

---

#### 評価の結果 目標2-1 生涯学習活動の展開

人生100年を見据え、生涯を通じて知識、スキルを習得できるよう「学べる環境づくり」に取り組んだ。具体的には町内の生涯学習施設を紹介するパンフレット「まなびハッケン」の作成、コロナ禍においても学び続け、公民館活動へ参加する機会となるよう教室・講座を動画で紹介する「のとデジコミ」を開設した。今後も、情報の更新等を進め、最新の学びが提供できるよう努力していく。

---

#### 今後の方向性

町民一人一人が豊かな生涯を送るために必要な知識や技能はこれまで以上に多様化することが想定される。多様化に対応できるよう、充実した生涯学習の場を提供し、支援していくため活動を支援していく。

## 目標2-2 生涯学習施設の整備と活用

### 施策1 図書館機能の充実及び適正管理(読書活動推進事業の推進)

事業	成果または課題
●図書館協議会の設置運営	<p>図書館運営にかかる課題について委員から意見を聴取し図書館機能を充実させた。図書館協議会委員 5名</p> <p>会議 年3回開催</p> <p>R2年 5月 (R1 実績報告、R2事業案)</p> <p>R2年 8月 (小木公民館視察)</p> <p>R3年 2月 (新型コロナ対策、蔵書点検報告、R3事業案)</p>
●図書館の利用促進	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、イベントは中止または内容の変更を行い開催した。また、関係機関との特別企画展示などを新たに展開した。</p> <p>中央図書館等でのイベントの開催</p> <p>星空観察会、葉プレゼント、ビンゴ</p> <p>特別企画展示、読み聞かせ等</p> <p>各図書館に地域の情報拠点、発信施設としての機能を充実させ、地域の求める図書サービスを提供する。また、生涯学習に関わる他施設と連携、協力し新たな方法を取り入れながら生涯学習の場の発展に努める。</p>

◎達成目標

項目	蔵書冊数	現状(R1)	実績(R2)	目標値(R5)
中央図書館	38,839 冊			
利用者数		18,995 人	13,806 人	20,000 人
貸出数		29,809 冊	27,514 冊	32,000 冊
柳田教養文化館	31,073 冊			
利用者数		15,316 人	15,602 人	16,000 人
貸出数		15,800 冊	14,890 冊	18,000 冊
松波図書館 分館	5,398 冊			
利用者数		1,385 人	1,303 人	13,000 人
貸出数		613 冊	1,290 冊	5,000 冊

松波図書館 分館は令和元年11月 開館

施策2 生涯学習施設整備と機能の充実

事業	成果または課題
●美術館及び満天星の魅力ある誘客事業	<p>施設において魅力ある事業を企画展開し、町の魅力を発信しながら魅力ある誘客に努めるとともに、町民にも愛着のある施設となるよう事業を実施した。</p> <p>羽根万象美術館 常設展のほか、町内外団体等による美術・芸術作品の展示会を開催した。 (特別展 実績年間 4 件)</p> <p>星の観察館「満天星」 プラネタリウムの投影、天体観望会を実施有線テレビとYoutube に動画「満天星 3分プラネ」を投稿した。 各イベントを実施(日食観察会、流星群観察会、惑星観察会、プラネタリウムコンサート、熟睡プラ寝たリウム)</p>



◎達成目標（星の観察館 満天星）

区 分	現状(R1)	実績(R2)	目標値(R5)
プラネタリウム	4,813 人	3,617 人	6,000 人
天体観望会	2,082 人	1,062 人	2,000 人
昼の天文台見学・その他	1,153 人	600 人	1,500 人
年間パスポート発行件数	16 件	23 件	20 件

評価の結果 目標2-2 生涯学習施設の整備と活用

松波図書館(分館)の開館により、身近に図書施設が充実し町民への利便性が図られた。各施設において企画展を実施するなど施設の魅力向上に努めた。

今後の方向性

中央図書館、柳田教養文化館、松波図書館(分館)の3館の連携により、誰もが簡単かつ快適に図書館サービスを受けられるように、図書の充実とレファレンスサービスの向上を目指す。

## 目標2-3 青少年健全育成の体制づくり

### 施策1 青少年を地域ぐるみで育む環境整備の推進

事業	成果または課題
●青少年育成センター運営協議会の運営	青少年の健全育成のため、多様化する青少年を取り巻く問題に対応し各関係団体との連携を図り、組織づくりを行う。
●電話相談員による相談窓口の設置	専門の相談員による、家族問題や日常生活の悩み、DVなど電話相談「なんでも相談カナリア」を開設。悩みを持つ青少年及び保護者等への適切な指導、助言を実施した。幅広い相談内容で相談件数は微増。相談窓口としての周知活動を行う。  相談件数 実績 46 件 毎週火、木曜日 午前 10 時～午後 2 時 DVや家族関係に関する相談が増加傾向

## 施策2 青少年の自立と社会参画に向けた支援の充実

事業	成果または課題
●立志の集い	<p>心身ともに健全な青少年を育成するため、人生の節目となる年齢において自立を意識する事業として実施した。</p> <p>令和3年2月8日(月)</p> <p>参加者対象 中学2年生 82人</p> <p>講師 上乘 秀雄氏 ケロンの小さな村村長</p> <p>講演テーマ 「夢を追う 好きは夢を育てる」</p>
●成人式	<p>新成人の門出を祝うとともに、大人としての自覚を促し、今後の活躍と社会参画に向けた支援。</p> <p>令和3年1月10日(日)</p> <p>参加者 111名</p>

## 施策3 家庭教育の在り方について学習する機会と情報の提供

事業	成果または課題
●男女共同参画推進協議会の設置運営	<p>第2次能登町男女共同参画行動計画の期間が2年度末で終了した。</p> <p>町長から諮問を受け、第3次行動計画の素案を作成した。令和3年2月に素案を町長へ答申、それを基に第3次行動計画が策定される。</p> <p>能登町男女共同参画推進審議会 年4回開催 委員12名</p> <p>令和3年度中には、行動計画の周知のため、各種講座・講演会を実施する。また、ダイジェスト版の作成・配布にも取り組む。</p>

---

### 評価の結果 目標2-3 青少年健全育成の体制づくり

男女がともに主体的に地域活動に参加し、地域力を向上することにより子どもたちが伸びやかに成長するよう取り組みを支援した。地元の読書推進団体による町計画の子ども達を対象とした啓発活動の準備も進められており、男女が共に支え合って夢を実現できる社会環境づくり、それを担う青少年の育成が進められている。

---

### 今後の方向性

家庭・地域・行政が一体となり、社会全体で健全育成活動の充実を図っていく。

## 基本方針3 郷土への愛着を醸成する地域文化・文化遺産の振興と継承

### 目標3-1 文化振興事業の推進

#### 施策1 伝統文化の継承に向けた施設整備

事業	成果または課題
●遠島山公園再整備事業	町の歴史、伝統、文化を通じて、町民の郷土愛を醸成するため、遠島山公園内の文化施設の再整備を検討した。 再整備計画を策定(平成26年度)

#### 施策2 文化芸術芸能鑑賞機会の充実

事業	成果または課題
●芸術鑑賞推進事業	中止 (新型コロナウイルス感染症拡大による) 子どもたちに質の高い文化芸術を鑑賞、体験する機会を確保することで、子どもたちの豊かな創造力、想像力などを養うことを目的とした事業。

### 施策3 文化・芸術団体に対する支援と伝統芸能、文化の発表機会の提供

事業	成果または課題
<p>●町文化協会支援(文化祭の開催)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、文化祭を中止とした。代替として、公民館における展示会の開催や、有線放送を活用した芸能団体の発表などを実施し、コロナ禍に対応した取り組みを実施した。</p>
<p>●公民館等での民俗芸能体験教室の実施</p>	<p>豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承するため各公民館等において、各地区の祭りや伝統行事、芸能に関する事業すべきところであるが、コロナ禍により中止等が相次いだ。こうした中でも、小規模な活動が公民館で実施された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不動寺公民館 田打ち歌の継承</li> <li>・小間生公民館 久田和紙づくり</li> <li>・秋吉公民館 あまめはぎの継承</li> </ul>

### 施策4 文化財に親しむ機会の提供と情報発信

事業	成果または課題
<p>●文化、歴史の紹介</p>	<p>町の広報誌に文化歴史について連続掲載することで町民に町の文化歴史に親しんでもらった。中央図書館では偉人、益谷秀次氏を紹介し、柳田教養文化館では合鹿椀を企画展示するなど、歴史を偉人と関連付けて紹介した。</p> <p>古文書を読む会においては、町の学芸員が講師となり、歴史に理解と愛着を深めた。</p>

---

### 評価の結果 目標3-1 文化振興事業の推進

学校教育や生涯学習施設における歴史・文化活動の支援(企画の提案、講師派遣など)を行い、生涯を通じた学習の場を提供することができた。コロナ禍における活動の中止も相次いだり、そうした中でも開催できる規模の小さい作品展や、有線テレビで芸能活動を収録し放送するなど、町内の文化団体に対して活動の支援を積極的に実施した。

---

### 今後の方向性

文化財(歴史・文化)を身近なものとしてとらえてもらうため、関係各種施設のハード、ソフト両面での再整備を図るとともに、展示や講座といった啓発・普及活動に取り組む。

能登町の歴史を通史的に学習できる場の創出に取り組む。

## 目標3-2 文化財の保護と活用

### 施策1 文化財の価値、魅力の継承

事業	成果または課題
●指定文化財の保存	指定文化財の保存として、国・県・町指定文化財について町・民間所有に関わらず、文化財パトロールを実施し、保存状態の確認等を行った。
●未指定文化財の的確な把握	未指定文化財の中で貴重であるものについて、町文化財に指定し、保護措置をとった（令和2年度2件、累計320件）。
●包蔵地での調査の実施	開発行為前に関係企業と協議し、必要に応じて試掘・踏査を実施した。



## 施策2 文化財の保護、歴史民俗資料・遺跡出土品の継承

事業	成果または課題
<p>●文化財保護審議会の設置運営</p>	<p>文化財保護審議会を縮小して開催した。 (新型コロナウイルス感染拡大による) 審議会では、文化財保護事業や町指定物件などについて報告、協議した。</p>
<p>●ユネスコ無形文化遺産の保存継承</p>	<p>「アマメハギ」及び「あえのこと」について、保存会等に保存・継承についての助言を行うとともに、行事等にも協力・参加した。秋吉公民館内に保存伝承と公開を目的に「アマメハギ伝承館」を整備した。</p>
<p>●能登内浦のドブネ保存整備事業</p>	<p>国指定有形民俗文化財ドブネ本体及び操船具類の保存修理を完了し、一般公開を始めた。</p>
<p>●県指定建造物「中谷家住宅附屋敷構え」の国指定を目差す取り組み</p>	<p>建築・文献・民俗等の調査の結果、建物の築造年代や変遷、歴史的背景が明らかとなり、中谷家住宅の文化財的価値を明らかにした。</p>

### 施策3 史跡事業の推進と価値の向上

事業	成果または課題
<p>●真脇遺跡整備事業 (第1期整備事業 平成19～23年)</p>	<p>第1期史跡整備事業に伴う発掘調査で出土した遺物を整理し、発掘調査報告書の刊行に向けた作業を実施した。また、第2期史跡整備基本計画策定業務(3年計画の1年目)を実施した。</p>
<p>●松波城址整備事業</p>	<p>文化庁の指導・助言を得ながら名勝庭園の発掘調査を実施し、保存整備に必要な情報を得ることができた。また、発掘期間中、町内外から延べ約300名の来跡があった。 また、名勝庭園の保存整備基本設計を実施した。</p>

#### ◎達成目標

単位:人

項目	H30	R1	R2	目標値(R5)
歴史文化に関する出前講座の参加人数	50	25	30	200
真脇遺跡縄文館 来館人数	4,684	4,715	2,930	8,000
真脇遺跡体験館 体験人数	341	421	183	500
真脇遺跡に関するイベント等 参加人数	7,280	6,286	3,605	10,000

---

## 評価の結果 目標3-2 文化財の保護と活用

ユネスコ無形文化遺産の保存継承のため、「アマメハギ展示館」を秋吉公民館に整備し、見学者へ十分な対応が可能となった。

---

## 今後の方向性

真脇遺跡は、令和3年度に調査報告書を刊行する。今後は第2期整備に向けて基本計画の策定を行ない、発掘調査で得られたデータを基に事業を推進する。旧松波城庭園は、整備を実施し、保存・活用を図っていく。中谷家住宅は国指定に向けた取り組みを引き続き行い、令和3年度中の申請を目指す。

今後は、アマメハギの担い手となる子どもの人数が激減する中で、どのように行事を継続していくか工夫していく。

## 目標3-3 歴史・文化を活かした交流人口の拡大

### 施策1 観光振興、地域振興事業との連携

事業	成果または課題
●日本遺産「能登のキリコ祭り」体験事業 (主担当の町ふるさと振興課と連携)	中止
●美術館、資料館における企画展示	企画展示(1件、入館者計852名) 指定管理者実施

### 評価の結果 目標3-3 歴史・文化を活かした交流人口の拡大

新型コロナウイルス感染症の影響があり、歴史・文化を活かした交流人口の拡大に関する行事等は、実施できなかった。

### 今後の方向性

日本遺産「能登のキリコ祭り」体験事業は、祭りの担い手不足の解消だけではなく、交流事業の拡大、地域活性化につながっており、今後も継続して実施していく。

また、美術館・資料館における展示企画は、令和3年度に4～5件（指定管理者実施事業）のほか、町主催の行事も計画しており、こうした取り組みを通して、交流人口の拡大につなげていく。合わせて、感染症対策を十分に行い、行事や展示会等を実施できるよう工夫していく。

## 基本方針4 健康で豊かな人間性を育てるスポーツ・レクリエーションの充実

### 目標4-1 生涯スポーツの推進

#### 施策1 各種団体との連携支援及び指導者育成

事業	成果または課題
<p><b>●体育協会、スポーツ少年団事業支援と連携</b></p> <p>町民がスポーツに関心を持つため、関係団体をはじめ地域や学校などと連携しスポーツの魅力を啓発</p>	<p>中止 県民体育大会 (新型コロナウイルス感染症拡大による)</p> <p>体育協会においては、具体活動支援の代替え措置として各単位協会活動支援を実施した。</p> <p>スポーツ少年団においては、単位団への活動補助を実施した。</p> <p>中止 交流会及び研修会 (新型コロナウイルス感染症拡大による)</p>
<p><b>●指導者養成講習会の実施</b></p> <p>地域でスポーツ指導を行う指導者を養成するための講習会</p>	<p>中止 県スポーツ少年団指導者講習会 (新型コロナウイルス感染症拡大による)</p>

#### 施策2 競技スポーツの振興

事業	成果または課題
<p><b>●部活動大会支援事業</b></p> <p>スポーツ競技に積極的に参加できるよう部活動大会への支援</p>	<p>学校に所属する部活動で公式大会や練習試合に参加した学校に補助金を交付した。人間形成の機会として意義のある部活動の円滑な運営と振興、生徒の安全確保を図った。</p>

### 施策3 スポーツに親しむ機会の提供と推進

事業	成果または課題
<p><b>●猿鬼歩こう走ろう健康大会の実施</b></p> <p>町民の多くが競技者やボランティアとして関わり、町民の健康管理の意識高揚が図られ郷土の良さを認識</p>	<p>中止 第34回大会 令和2年5月3日 (新型コロナウイルス感染症拡大による)</p>
<p><b>●町民交流事業(公民館対抗)</b></p> <p>町民がスポーツに関心を持ち、日頃から体力・健康の増進</p>	<p>中止</p> <p>公民館対抗町民ソフトバレーボール大会 ニュースポーツ体験会(ペタンク競技) (新型コロナウイルス感染症拡大による)</p>
<p><b>●テニスフェスティバルの開催支援</b></p>	<p>中止</p> <p>神和住純エンジョイテニスフェスティバル (新型コロナウイルス感染症拡大による)</p>

#### ◎達成目標

単位:人

項目	実績(H30)	実績(R1)	実績(R2)	目標値(R5)
猿鬼歩こう走ろう健康大会 参加者数	1,350	1,204	中止	1,400

---

#### 施策4 参加型スポーツ、地域スポーツ活動の推進

事業	成果または課題
<p><b>●スポーツ推進委員の設置</b></p> <p>スポーツ推進のためスポーツ推進委員を中心に、各種事業の実施に係る連絡調整や、スポーツの実技指導の実施</p>	<p>各公民館より推薦されたスポーツ推進委員の活動によって、町内くまなくニュースポーツの普及やスポーツ活動の推進が図られている。</p>
<p><b>●総合型地域スポーツクラブの創設検討</b></p>	<p>設立に向けての検討、協議が過去に中断しているため、改めて取り組みが可能な範囲でのクラブ立ち上げを検討している。</p>

---

#### 評価の結果 目標4-1 生涯スポーツの推進

各施策について概ね成果は上がっており、各種団体と連携を図りながら、町民スポーツのすそ野を広げることに努めた。デジタル公民館においてニュースポーツ「ペタンク」の紹介動画を公開し、さらなる普及を図った。

---

#### 今後の方向性

町民の健康づくりのため、スポーツ振興の取り組みを積極的に推進し、好評を得ている猿鬼歩こう走ろう健康大会については、今後も事業の効率化を図りながら開催を維持する。

## 目標4-2 スポーツ施設の整備と積極的活用

### 施策1 施設の維持管理

事業	成果または課題
●各スポーツ施設の維持管理	<p>必要な修繕を行い、安全の確保や機能の維持に行った。</p> <p>整備から維持管理までのトータルコストの縮減や効用の最大化を図り長寿命化対策などによる機能の維持と向上策を講じる。</p>
●施設数の適正化	<p>現時点において類似施設の統廃合は進捗していない。町の全ての公共施設の再編を考える公共施設個別施設計画(令和3年度策定・発行予定)の中で体育施設の在り方を検討し、素案を策定した。</p>

#### ◎参考指標(社会体育施設利用人数)

単位:人

項目	実績(H30)	実績(R1)	実績(R2)	目標値(R5)
藤波運動公園	40,977	41,046	26,478	40,000
内浦総合運動公園	41,803	39,399	22,316	40,000
能都体育館	17,107	15,925	12,643	17,000
柳田体育館	10,275	8,334	6,593	10,000



## 施策2 施設間の連携及び機能強化

事業	成果または課題
●施設の機能強化 (屋内テニスコートの人工芝化)	屋外16面、屋内4面の計20面が人工芝となり、全国規模の大会開催において施設の機能強化が図られた。今後、大会誘致において施設の魅力が向上した。

## 施策3 学校施設開放と活用

事業	成果または課題
●各競技団体等への学校施設開放	各学校施設は、スポーツ少年団の活動拠点となっており、学校の地域開放の観点から、誰もが気楽に学校体育施設を利活用できるよう施設の利便性を高めた。

## 評価の結果 目標4-2 スポーツ施設の整備と積極的活用

体育施設については、町民の健康づくりの拠点であり、適切な維持管理を行った。

### 今後の方向性

類似施設の統廃合については、町の財政状況や今後の使用状況を鑑み計画的に取り組む。合わせて代替施設の検討や現有施設の耐震化・長寿命化の検討を進める。

R2年度は新型コロナウイルス感染症対策による施設の使用制限などの影響で、利用人数が大きく減少している。体育施設の利用数増減については今後の感染症の状況にもよるが、コロナ禍以前の利用水準を目標とし、改めてスポーツの普及を図りたい。

## 基本方針5 国際社会に対応できる人材育成と国際交流の推進

### 目標5-1 国際的視野を持つ人材の育成

#### 施策1 人材の育成

事業	成果または課題
●中学生海外派遣事業	未実施 (東京オリンピックの開催を見据えた)

#### 評価の結果 目標5-1 国際的視野を持つ人材の育成

事業を実施していないため評価結果なし

#### 今後の方向性

新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながらの実施となるが、ホームステイ先の家族との交流や、ホスト校での活動を通して、積極的にグローバルな人材の育成を図るため、事業を推進する。

## 目標5-2 外国語指導助手の招致と活用の拡充

### 施策1 異文化交流の促進

事業	成果または課題
●外国語指導助手の英語授業サポート	外国語指導助手2名の配置 JET プログラム (語学指導等を行う外国青年招致事業)  ・シンプソン トーマス ジェームズ 柳田小・小木小・松波小・小木中・松波中 R2. 9月から全小中学校訪問 (8月以降 1名のため)  ・ファンコイレン セイカ レベッカ 宇出津小・鶴川小・柳田中・能都中 (R2. 7月末まで)

### 評価の結果 目標5-2 外国語指導助手の招致と活用の拡充

ALTとの交流を通じて外国の言語や文化に触れ、より身近に外国を学ぶことができた。

### 今後の方向性

学校における外国語の取り組みが拡大されることから、更なる英語教育の充実を図る。

## 2 評価の結果と理由

### (1) 評価の結果一覧

#### 評価基準

- A** 優れた取り組みで十分な成果があり、計画どおりの事業推進が適当
- B** 良い取り組みで成果が上がっているが、事業の進め方に改善が必要
- C** 十分な成果が上がってなく、事業規模・内容の見直しが必要

No. 基本方針、目標	評価結果	
	教育委員会	外部評価委員会
<b>基本方針1</b> まちの未来を担う人材を育てる学校教育の推進	B	B
目標1-1 学力向上	B	B
目標1-2 豊かな心身の育成	A	A
目標1-3 特別支援教育の推進	B	A
目標1-4 家庭や地域との連携	B	B
目標1-5 教育環境の整備	A	A
目標1-6 指導体制の充実	B	B
目標1-7 保護者負担の軽減	B	B
<b>基本方針2</b> 学ぶことに興味を抱ける生涯学習活動の推進	B	B
目標2-1 生涯学習活動の展開	B	B
目標2-2 生涯学習施設の整備と活用	B	B
目標2-3 青少年健全育成の体制づくり	B	B
<b>基本方針3</b> 郷土への愛着を醸成する地域文化・文化遺産の振興と継承	B	B
目標3-1 文化振興事業の推進	B	B
目標3-2 文化財の保護と活用	B	B
目標3-3 歴史・文化を活かした交流人口の拡大	B	B
<b>基本方針4</b> 健康で豊かな人間性を育てるスポーツ・レクリエーションの充実	B	B
目標4-1 生涯スポーツの推進	B	B
目標4-2 スポーツ施設の整備と積極的活用	B	B
<b>基本方針5</b> 国際社会に対応できる人材育成と国際交流の推進	B	B
目標5-1 国際的視野を持つ人材の育成	B	B
目標5-2 外国語指導助手の招致と活用の拡充	B	B

## (2) 評価の理由

基本方針1 まちの未来を担う人材を育てる学校教育の推進		結果
	<p>教育委員会 評価の結果 理由</p> <p>児童生徒の学びを止めず、知・徳・体のバランスの取れた教育活動を工夫した。町の学力調査（ベネッセ）では、中学1年生は良好（全国平均以上）、中学2年生、小学3・5年生は全国と同程度であった。安全安心な学校生活では、個に応じた対応、新しい生活様式の徹底、各行事を児童生徒に主体的に考えさせ実施したことで、困難な状況に負けない力を育てることができた。GIGAスクール構想における教育環境が充実し、県内でも早期に授業での活用が進んだ。児童生徒により豊かな学びが保障できるように、学校、家庭、地域がより一層連携していく必要がある。</p>	B
	<p>外部評価委員会 評価結果 理由</p> <p><u>学力向上</u></p> <p>新型コロナウイルス感染症の予防対策で休業期間はあったが、町の学力調査は、中学校1年生は良好であった。その他は全国平均と同程度ということで、今後さらに学力調査の検証結果を、各教員の授業改善に活かし学力向上につなげていく必要がある。</p> <p>また、感染症予防で、3密を避ける等の教育活動上の制限があるなかでも、学力向上事業、海洋教育等を工夫しながら教育実践を行っていた。</p>	B
目標1-1	<p><u>豊かな心身の育成</u></p> <p>食育推進事業としてマニュアルを作成できたことは、安心安全な学校作りへと、一歩進んだ。いじめについては、認知件数が昨年に比べて増えているが、重大事態件数は0である。早期発見、早期対応ができていて、重大事態になる前に対応しているということであり今後も粘り強い取り組みを図る必要がある。</p>	A
目標1-2	<p><u>特別支援教育の推進</u></p> <p>特別支援学級や通級指導教室の設置、特別支援教育支援員の適切な配置がなされている。学校巡回観察を行い、支援が必要な児童一人一人の教育的ニーズを探っている。</p>	A
目標1-3	<p><u>家庭や地域との連携</u></p> <p>「開かれた学校」として学校便りやHP、メール配信などで積極的・タイムリーな情報発信を行っている。授業参観・学校行事への参加については、コロナ禍にあって、従来通りにはできなかったが、感染予防対策をしながら形を変え、工夫しながら行うことができた。</p>	B
目標1-4	<p><u>教育環境の整備</u></p> <p>計画的に遂行され、以前からの能登町の取組としてICT環境を充実させていたためGIGAスクール構想をいち早く教育実践に移すことができた。学校施設の維持管理として、特別教室の空調設備を整えることもできた。</p>	A
目標1-5		

<u>指導体制の充実</u>		
目標1-6	教育支援体制設備事業費補助金を活用してスクールサポートスタッフが各学校に配置され、コロナ禍での増えた業務を任せる等、教職員の多忙化改善につながっている。教職員の多忙化改善の取り組み・意識改革は着実に進んでいるが、さらに改善を推進していく必要がある。	B
<u>保護者負担の軽減</u>		
目標1-7	経済的な理由による就学困難な子どもの保護者に対する就学援助により、経済的な負担が軽減されている。	B
<b>基本方針2 学ぶことに興味を抱ける生涯学習活動の推進</b>		
<u>教育委員会 評価の結果 理由</u>		B
<p>町内における生涯学習の最前線である公民館の利活用推進を図るため、パンフレットの作成、講座・教室の動画配信など、町民へ活動を広報する取り組みに力を入れている。町民から「あんな活動をやってみたい」という声も聞かれ、利活用の推進が着実に進んでいる。</p> <p>まちづくり出前講座では、講座の充実、住民の認知率が高まったことによる利用増により、有意義な事業展開が図られている。また、講座を活用した町民大学校の開催に向けて準備中である。</p>		
<u>外部評価委員会 評価結果 理由</u>		B
<u>生涯学習活動の展開</u>		
目標2-1	<p>出前講座 受講者数が町人口に対して約8%、より多くの町民に受講してもらえるよう積極的に広報、アピールが必要と考える。受講風景などを有線テレビや町ホームページで紹介するのも良いかもしれない。また、104の講座数に対し、87の受講、受講のなかったテーマの見直しやネーミング変更なども必要かと思う。</p> <p>生涯学習推進大会 コロナ禍による開催中止でも、公民館関係者や生涯学習にかかわる人たちでの、今後のあり方や、開催方法などの話し合いなどの場を設けるなど少人数でできることはあったのだと思う。公民館、特色ある活動事業 自主事業 各公民館とも、いろいろ考えて事業を行ない、地域を引き込もうとする努力がみられる、地域によっては、まだ古い施設のままでも不満もあると思うが、それを補いつつ活動をしているようだ、アンケート結果(令和3年度実施)を活用し、より積極的に活動できるよう町がサポートできればと思う。</p>	B
<u>生涯学習施設の整備</u>		
目標2-2	<p>図書館の利用実績もそこそこあり、満天星、羽根万象美術館の各施設も独自の企画を行うなど成果が上がっている。インターネットやスマホで簡単に本を読めたり、美術や星空の映像も見る事の出来る現在で、いかに本物の良さや楽しさを伝えるかが課題であると思う。利用者はリピーターが多いのではないかと、できれば幅広い年齢層の町民に利用してもらえるようもう一度、魅力の発信を望む。</p> <p>また、町には外からの定住者や外国人が増えてきた、そういった方々にも広く利用してもらえるよう、宣伝できればと思う。</p>	B

	<u>青少年健全育成の体制づくり</u>	
目標2-3	青少年育成にかかわる各団体との連携、組織づくりは早急に行う必要があると思う。また、電話相談窓口については、電話だけでなく、メールやラインの活用が必要かと思う。厚労省調査でも、LINEが一番多く、チャットやTwitterも利用されているようだ。	B

<b>基本方針3 郷土への愛着を醸成する地域文化・文化遺産の振興と継承</b>		
---	--	--

	<u>教育委員会 評価の結果 理由</u>	B
--	-----------------------	---

本町においては、真脇遺跡や旧松波城庭園跡といった国指定物件が数多く存在し、整備・保存活動を行いつつ、それらに関する周知・啓発活動を精力的に実施している。具体的には、展示施設や現地における専門員の解説などがあり、町内外から多くの人々が訪れている。

また、子ども達に対しては、放課後子ども教室における伝統文化の体験教室や、まちづくり出前講座における歴史教室など、様々な点での周知活動を実施し、地域の歴史・文化継承に力を入れている。今後も、周知・周知活動の促進、特に子どもたちへの活動を活発化させる必要があると考えている。

	<u>外部評価委員会 評価結果 理由</u>	B
--	------------------------	---

目標3-1	<u>文化振興事業の推進</u> 新型コロナウイルス感染拡大により、体験活動事業が中止となる中、今後も町の貴重な文化財を充分活かして、子どもたちや町民の文化振興事業の推進が必要である。	B
-------	---	---

目標3-2	<u>文化財の保護と活用</u> 「アマメハギ」、「ドブネ収蔵庫」、「中谷家」、「松波城址」等の事業により評価できる。今後、古文書、文化財等貴重な資料保存について、データベース、書籍化等、長期的視野で保存管理する体制が必要である。	B
-------	--	---

目標3-3	<u>歴史・文化を活かした交流人口の拡大</u> 新型コロナウイルス感染拡大により、来館者の減少、各地区の祭礼が中止となり、交流人口の減少はやむを得ない。文化や歴史は財産であり、新しい生活様式の中、情報発信等の施策を重点的に進めていくことが必要である。	B
-------	---	---



基本方針4 健康で豊かな人間性を育てるスポーツ・レクリエーションの充実

	教育委員会 評価の結果 理由	B
	<p>体育協会等各種団体との連携により、町民が各種スポーツに取り組める環境づくりを図り、指導者の育成や部活動支援により児童生徒の競技力の向上にも努めている。また、スポーツ推進委員の活動において生涯スポーツでの交流事業を展開し町民がスポーツに親しむ機会を提供するなど概ねの成果は上がっていると思われる。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大によりスポーツの大会やイベントの中止が相次いだり、各種団体には継続して活動できるよう支援を行った。今後は更に町民がスポーツに親しめる環境づくりを模索するとともに、体育施設の適正配置など時代の要請に応じた環境整備に努めたい。</p>	

	外部評価委員会 評価結果 理由	B
目標4-1	<p><u>生涯スポーツの推進</u></p> <p>体育協会やスポーツ少年団等に関係する団体により、参加者それぞれの力量に応じた活動を推進しサポートする体制ができている。高齢者がスポーツに親しむ機会も多く、ペタンクやグラウンドゴルフ、ウォーキングなどを親しむ町民がたくさんおり、町民のスポーツ参加の意欲は高いと言える。</p>	B

目標4-2	<p><u>スポーツ施設の整備と積極的活用</u></p> <p>現状の施設は町民の利用欲求をほぼ満たしている。令和3年度に策定される公共施設個別施設計画の方針をふまえ、今後の人口減少に伴う施設の統廃合や維持管理について町民と意識を共有しながら適正配置を考えて行く必要がある。</p>	B
-------	--	---

基本方針5 国際社会に対応できる人材育成と国際交流の推進

	教育委員会 評価の結果 理由	B
	<p>外国人指導助手を活用して、英語でのコミュニケーション能力の向上が図られた。海外に対する意識を引き出し、国際社会に対する理解を深め、さらなる興味を引き出すものとして、人材の育成、国際交流の推進が確実に達成されている。</p>	

	外部評価委員会 評価結果 理由	B
目標5-1	<p><u>国際的視野を持つ人材の育成</u></p> <p>国際的視野・国際感覚を備えた人材育成のために海外派遣事業はとても有効であるので、環境が整えば本事業を再開する必要がある。できない間の代替事業、たとえばオンラインでの交流などを考えてみればどうか。</p>	B

目標5-2	<p><u>外国語指導助手の招致と活用の拡充</u></p> <p>子どもたちは外国語指導助手との交流を通じて異文化に触れながら楽しく英語を学んでいる。また、ALTは子どもたちの英語学習に対する興味・関心に寄与している。</p>	B
-------	--	---



### Ⅲ 参考資料

#### 1 教育委員会の活動状況

##### (1) 教育長、教育委員

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

職	教育長	教育長 職務代理者	委員	委員	委員
ふりがな 氏名	なかぐち けんじ 中口 憲治	なかたに ゆみ 仲谷 由美	いちたに みえこ 一谷 美枝子	うわみ まさと 上見 正人	かみゆいけんいちろう 上結 謙一郎

##### (2) 教育委員の活動概況

教育委員会では、教育委員会会議定例会及び臨時会、学校訪問、研究会や各種研修会への参加など各委員がそれぞれの専門性や識見を発揮しながら教育行政の推進のために活動している。また、町長と教育委員会とが重点的に講ずべき施策等について協議・調整を行う場である総合教育会議は町長の招集により4月に開催された。

教育委員会会議については定例会が原則として毎月1回、必要に応じて臨時会が開催される。令和2年度は定例会12回、臨時会1回の開催となった。会議に諮られた議案数は計55件で、条例・規則等に関する議案27件、人事に関する議案6件、予算に関する議案6件、教科書採択に関する議案等16件について審議した。

##### (3) 教育委員の主な活動

月	会議	学校訪問等	その他出席行事等
4月	定例会①臨時会①		総合教育会議
5月	定例会②		
6月	定例会③		
7月	定例会④		
8月	定例会⑤		
9月	定例会⑥		
10月	定例会⑦		市町教育委員会セミナー
11月	定例会⑧		
12月	定例会⑨		
1月	定例会⑩		
2月	定例会⑪		
3月	定例会⑫		

(4) 教育委員会会議 議案一覧

開催日	番号	議案名等
令和2年4月2日	第14号	令和2年度 能登町教育の基本方針について
	第15号	スポーツ推進委員の委嘱について
	第16号	学校医の委嘱について
	第17号	能登町教育委員会会計年度任用職員の任用等に関する規則について
	第18号	第2期 能登町教育振興基本計画について
令和2年4月30日	第19号	教育長職務代理者の指名について
	第20号	能登町教育委員会事務局処務規程の一部改正について
令和2年5月14日	第21号	令和2年度教育委員会所管にかかる補正予算について(第2号)
	第22号	能登町図書館協議会委員の委嘱について
	第23号	能登町文化財保護審議会への諮問について
	第24号	能登町就学援助費交付規則の一部を改正する規則について
令和2年6月5日	第25号	能登町公立学校管理規則の一部改正について
	第26号	能登町立図書館協議会運営規則の一部改正について
	第27号	能登町教育委員会外部評価委員会委員の委嘱について
	第28号	公民館運営審議委員の委嘱について
	第29号	能登町教育委員会障害者活躍推進計画について
	第30号	就学援助にかかる認定について
	第31号	能登町文化財の指定について

開催日	番号	議案名等
令和2年7月6日	第32号	能登町文化財保護条例の一部改正について
	第33号	能登町特別支援教育支援員配置要綱の一部改正について
	第34号	能登町放課後子ども教室推進事業実施要綱の制定について
	第35号	能登町県費負担教職員の自家用車の公務使用に関する要綱の一部改正
	第36号	就学援助にかかる認定について
	第37号	令和2年度教育委員会所管にかかる補正予算について(第3号)
令和2年8月5日	第38号	令和3年度以降使用中学校教科書の採択について
令和2年9月1日	第39号	令和2年度教育委員会所管にかかる補正予算について(第4号)
	第40号	就学援助にかかる認定及び取り消しについて
令和2年10月6日	第41号	能登町教育委員会事務局組織規則の一部改正について
令和2年11月2日	第42号	能登町教育委員会有償ボランティア災害補償規程の一部改正について
	第43号	準要保護認定の取り消しについて
令和2年12月1日	第44号	令和2年度教育委員会所管にかかる補正予算について(第5号)
	第45号	準要保護認定の取り消しについて
	第46号	能登町教育支援委員会における判定結果について
令和3年1月7日	第1号	「能登町の歴史・文化・自然」編さん委員会設置要綱
	第2号	全国高等学校総合体育大会能登町実行委員会設置要綱
	第3号	能登町立公民館管理運営規則の一部改正
	第4号	能登町奨学資金貸与規則の一部を改正する規則
	第5号	能登町学校給食共同調理場条例
	第6号	能登町学校給食共同調理場条例施行規則

開催日	番号	議案名等
令和3年2月12日	第7号	令和2年度教育委員会所管にかかる補正予算について(補正第7号)
	第8号	能登町立公民館管理運営規則の一部改正
	第9号	能登町スポーツ表彰規則の一部改正について
	第10号	能登町公立学校管理規則の一部改正について
令和3年2月12日	第11号	能登町真脇遺跡縄文館管理運営規則の一部改正について
	第12号	能登町体育施設管理規則の一部改正について
	第13号	能登町内浦スポーツ研修センター管理運営規則の一部改正について
	第14号	能登町文化財保護条例施行規則の一部改正について
	第15号	能登町立学校の通学区域に関する規則の一部改正について
	第16号	能登町有償ボランティア災害補償規程の一部改正について
	第17号	令和3年度新入学準備金の支給決定について
	第18号	令和2年度準要保護の認定について
	第19号	能登町社会教育功労者表彰受賞者の決定について(2月3日書面議決)
令和3年3月1日	第20号	令和3年度教育委員会所管にかかる当初予算について
	第21号	令和3年度能登町教育の基本方針について
	第22号	能登町立公民館運営審議会運営に関する内規について

## 2 教育費決算額

(単位:千円)

科目		令和2年度		令和元年度		前年比		
款	項	事業名称	決算 A	構成比	決算 B	構成比	増減 A-B	増減率
		一般会計	18,783,791		19,720,447		△ 936,656	-4.7%
10		教育費	1,534,856	100.0%	1,126,566	100.0%	408,290	36.2%
10	1	教育総務費	476,799	31.1%	303,712	27.0%	173,087	57.0%
10	2	小学校費	296,520	19.3%	284,625	25.3%	11,895	4.2%
10	3	中学校費	154,859	10.1%	128,841	11.4%	26,018	20.2%
10	4	社会教育費	358,383	23.3%	226,754	20.1%	131,629	58.0%
10	5	保健体育費	248,295	16.2%	182,634	16.2%	65,661	36.0%